

大明教育 実践の評価 <集計結果と考察>

評価のねらい

- ◆25年度末の実践の評価および1学期の実践の評価を踏まえ、今年度の課題を明らかにする。
- ◆小中連携及び学校・家庭・地域の連携・協働の場を探る。

<評価方法について>

◇Aーよい Bーふつう Cー改善が必要 の3段階で評価

◇評価者の職種によっては評価できない項目もありますので、その場合は空欄にしないで斜め線を記入してください。

◇評価欄に斜線がある項目は2回目に評価してください。

◇「気づいたこと」には、率直なご意見を記述してください。特にC評価については改善方法等を具体的に書いてください。

評 価 項 目	評 価		
	A	B	C
1. 教育目標について			
① 学校教育目標・指導重点は適切だったか。	22	0	0
② 学校教育目標が学年学級経営や教科指導に具現化されているか。	10	7	0
③ 学校教育目標や経営方針が児童や父母に理解されるよう配慮されているか。	11	8	0
気がついたこと <ul style="list-style-type: none"> 各学年の目標は、学校教育目標をどう具現化しているのか、全体を通してみても系統的に考えられていないように思います。1年生から6年生まで目標設定がバラバラで、学年によってはスローガンのようなものもあります。全体を通して見直し、学年または低中高のブロックにより、段階的に高まっていくように設定したほうがよいと思います。 学校便りや学年便りに、学校教育目標を常に明記してあるのはよい方法だと思います。 学校保健委員会などで保護者が学校生活をより知ることが出来ている。参加者が増えるとさらによいと思う。 			
<考察> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標及び指導重点については、本校の継続した目標であり、生きる力を育む適切な目標であると考えます。 各学年の目標は、学校教育目標を具現化するものであり、それぞれの発達段階に応じた目標設定をすることが大切である。 学校通信、保健だよりなど全体に配付するものや、各学年通信などにおいて、共通して学校目標を常に明記しておくことは、保護者や児童の目に常に触れることから自然と共通理解をするための工夫として良い方法と考える。 			
<改善策1> <ul style="list-style-type: none"> 4月当初、各学年の目標を設定する際に、それぞれの学年の発達段階に即し且つ、学校目標との関係を明確にできるような目標設定をするとともに、低・中・高学年が系統的に取り組めるような目標設定の話し合いを持つ。 			
2. 経営・組織			
① 学校運営に関する連絡・調整はスムーズか。	11	8	2
② 職員会議は学校運営に適切に機能しているか。	16	5	1
③ 学年打ち合わせが十分できているか。	12	4	0
④ 研究主題は、学校課題に合った適切な内容であったか。	14	6	0
気がついたこと <ul style="list-style-type: none"> 職員会議を短くしようと(何人かが)努力しているが、なかなかそうならない。 終礼・会議が長いです。必要なことは、ホワイトボードへ書くなどの決まりがあるようですが、徹底されてない気がします。職員会議・校内研究後の終礼は、思い切ってカットしてはどうでしょうか。校内研究は、1時間では深まらないし、いつも長引くのに4時半からの終礼は、設定自体が無理だと思います。人数が揃っていないなくても、後で伝える、インターホンで連絡するなどして設定時刻には始めるようにしたいです。 交換授業の先生との打ち合わせの時間が十分とれなかった。顔を合わせて話ができたならよかった。 終礼で白板に書いて時間短縮できるようにしたのに、1つ1つの連絡事項が長いので長引きます。 			

- ・昨年より、職員会議や終礼がスムーズに行えている。文書で提案されているので、何度も確かめられる。
- ・職員会議の時間が長すぎる。終了時刻を明確にし、それまでに終わるよう提案時間を短縮できるものはしていった方がいいと思います。

〈考察〉

- ・学校運営に関する連絡・調整については、昨年よりもB評価がA評価に移行しているものの、まだ十分ではないと感じている先生方が多い。
- ・職員会議自体は学校運営に適切に機能していると考えている先生方が多いが、終礼も含めて時間短縮が必要であると考えている先生方が多い。
- ・終礼なども文書で提案されることは、共通理解のため効果があると考えられる。

〈改善策2〉

- ・職員会議の時間は短ければいいというわけではなく、また長ければより共通理解が深まるというものでもない。提案者は簡潔で適切なわかりやすい提案を心がけるとともに、教職員は疑問点や改善案があれば積極的に議論をすることが大切である。この根本原理を教職員で共有していく。
- ・終礼などでは、あらかじめ決められた電子ファイルに必要な事項を記述しておくとともに、終礼時は簡潔な提案と電子ファイルを全員が見ながら確認をしていくなどの、時間短縮と内容の徹底について工夫をする。

3. 教育課程 (1) 全般

① 教育課程に本校の特色は生かされているか。	10	11	0
------------------------	----	----	---

(2) 各教科・総合的な学習

② 教科指導は、教材研究・事前の準備等を行い、わかる・楽しい授業に心がけたか。	12	5	0
③ 創意工夫のある授業実践を通して、自ら学ぶ意欲と態度を育てることができたか。	4	12	1
④ 各教科の授業時数は確保できているか。	11	3	1

(3) 道徳

⑤ 教科や他領域との関連に考慮がはらわれているか。	10	5	0
⑥ 道徳的実践・道徳性などが高められていると思うか。	1	15	2

(4) 特別活動(学級活動・児童会活動)

⑦ 学級活動は、自主的・自発的に運営されたか	3	12	1
⑧ 児童会活動は、自主的・自発的に運営されたか。	13	7	0

(5) 学校行事

⑨ 学校行事は適切に計画的に実施されているか。	12	10	0
⑩ 学校行事は、学校生活に活力を与えるよう計画運営されているか。	17	5	0

気がついたこと

- ・なかよし集会を台風が迫ってくる雨(小雨でしたが)の中行っていたが、どんなものかと思いました。職員は中で打ち合わせで、担当者が一人外にいただけでした。早々に切り上げた班もあったようですが、中止にするべきだったのではないかと思います。
- ・教材研究・授業準備に心がけてきたが、時間が少なく十分にはできていない。もっと計画的にするといいが、提案文書、提出書類などの作成に追われて、なかなかできなかったことを反省している。
- ・道徳的判断ができないと思える行動が目につく。正しい価値を考える道徳の時間の充実も大切に思う。
- ・児童会活動は、活動の目的を十分理解させたい。言っていることとやっていることが伴っていないように思う。
- ・廊下を走らないことや物を大切に(ガラスが割られる等)ことなど、道徳心が欠如している。
- ・小笠原流礼法を取り入れた道徳指導をしているが、一人一人を見たときあまり成果が感じられない。
- ・ガラスを割る、壁を壊すなど 気になる行動が多かった。判断力・実践力を身に付けるなどの指導に力を入れたい。
- ・救急法講習会は、学期末でなく、もう少し早い時期にした方がよい。諸帳簿で忙しい時期で大変だった。

- ・1教科空き時間があるものの、高学年は7教科、道徳、外国語、総合と準備がとても大変です。アンケートやその他の資料作りなど、他学年でできるものは回していただいて、分担を減らし、教材研究に時間を回せるようにしてほしいです。
- ・行事(児童会行事・PTAに関わる行事など)が多い週があり、児童がフリータイムで自由に過ごせないことがあり、負担になっていたのではないかと。
- ・フリータイムなどいろいろな行事があつて(続いた時があり)とても忙しいと思った。フリータイムは、ゆっくりと自由な時間として使える方がよいと思う。

〈考察〉

- ・先生方は、限られた時間の中で教科研究のみならずさまざまな事務処理に翻弄されている現状である。そのため、果たして教材研究は十分であったのかという不安に自問自答している姿がうかがえる。
- ・道徳教育は教育活動の中で重要な位置を占めていることを踏まえ、道徳授業を行っているが、果たしてそれにより道徳的实践力まで身につけることができたかどうか不安を感じている。
- ・学級活動については、低・中・高学年のそれぞれの発達段階があり、低学年ではまだ自主的・自発的に行うことは困難であり、中学年においてもすべ児童が行っていくことは難しい。そういう面で評価もB評価に集中してしまったのではないかと考える。

〈改善策3〉

- ・限られた中での教材研究は一人ひとりが別々に行うのではなく、学年としてアイデアや指導法の工夫を出し合うなど協力・分担して行うようにしていく。また、他の学年の先生方でも積極的に意見を聞きあい、自分の考えを振り返り、まとめていくようにしていく。
- ・道徳の授業や休み時間、給食指導、清掃活動など教育活動全体を通じて教育的価値を指導し、道徳的实践力を身につけていくことを目標にしているが、その成果はすぐに目に見える形であらわれてくるものではない。いま指導していることが次の学年や中学校・高等学校へとつながっていくことを信じて地道に継続していくことが大切である。また、規範意識は学校のみで育成されるものではなく、むしろ家庭や地域の中で育まれることを考えると、小さなことであっても、「学校でこのように指導しましたので、御家庭でも合わせて御指導をお願いします」というように、同じ歩調で指導して聞けるよう連絡を密にとっていく。
- ・学校教育目標である「自ら考え 活動する 心豊かな子ども」を具現化するための自主的・自発的な活動は、それぞれの学年に即した具体的な目標設定をする。その際、あまり高いハードルを考えず、できたら褒めることを繰り返すことができるように設定していくように考えていく。

4. 学級経営・生徒指導

① 児童との心のふれあいを深め、豊かな人間関係を築く学級づくりに取り組めたか。	10	5	0
② 職員が共通理解をもち生徒指導を推進しているか。	13	9	0
③ 支援委員会を中心とした支援は適切に行われたか。	15	6	0

気がついたこと

- ・落ち着いて学習できるようになり、クラスとしてなんとか成立しています。クラスとしての良いところも見られるようになってきました。きまりを守るよう徹底していますが、一人二人落ちこぼれます。子どもの本質は、簡単には変わらないので、全校の先生方のご支援をお願いします。
- ・時間を守る、廊下は歩くなどの大明スタンダードを意識して指導しているので、児童もよい方向に変わりつつある。特に、集会活動や集団下校などの集合時刻は、きちんと守れるようになってきて、②の大きな成果だと思う。
- ・特別支援コーディネーターを中心に、保護者との連携に努め、児童の将来を見据えた対応を模索していると思う。
- ・児童の情報交換は、顔と名前もわかりとても良いと思う。
- ・子ども一人一人とゆっくり関わる時間がなかなかとれずに日々忙しい中で子どもも追い立ててしまっている気がします。
- ・支援スタッフの先生方が、とてもきめ細かく対応してくださるので助かっています。お願いしたことはもちろん、自分からも考えて動いてくださり、かゆいところに手が届くような気配りに感謝しています。

〈考察〉

- ・多くの先生が学級経営・生徒指導について成果が上がっていると実感している。これは、一人一人がそれぞれががんばるのではなく、チーム大明として共同歩調で教育活動を行い、また児童への指導を行っている成果であると考え。
- ・特別支援コーディネーターを中心として、支援が必要な児童それぞれの対応について、教職員への共通理解に努めるとともに、関係諸機関への調整を積極的に行っていることが、良い方向へと舵を取っている一因であると考え。
- ・支援スタッフの先生方がそれぞれの役割を超えて、積極的に児童とかかわりを持ってくれていることが学級担任の先生方の学級経営の大きな力になっていることがうかがえる。

5. 家庭・地域社会との連携

① 授業参観・懇談会は適切だったか。(回数・内容・出席率)	12	6	0
② PTA活動は目標達成のため計画的に展開されているか。	11	11	0
③ 児童の登下校時において安全が確保されているか。	16	6	0
④ 学校応援団を有効に活用できたか。	10	6	0

気がついたこと

- ・PTA活動も前年度と同様という形になっている。代表的なものとして、交通安全看板作り
- ・地域の協力、ご理解をいただき、児童安全に努めるとともに、児童安全が確保されていると思う。児童自身に、危機を予測し回避する力を今以上に育てたい。
- ・1学期は、学校応援団をあまり活用できなかった。
- ・心肺蘇生法講習会は、プールが始まる前に実施したらどうか。学校応援団でプールの監視に来てくださる保護者も受けたほうがよいと思うので。
- ・水泳の時間、ボランティアに来ていただいたのでとても助かった。
- ・読み聞かせをしてもらっているが、子どもたちは興味深く聞き、読書の幅も広まり効果が上がっている。
- ・自分の学級経営の未熟さや、保護者との人間関係がまだできていないことがあるとは思いますが、家庭訪問や連絡帳その他から、学校と保護者との距離を感じます。難しい保護者がいることも事実ではあるけれど、それだけではないのかなと思います。学校としてどうしていったらいいのか考えていく必要があるのではと思いました。

〈考察〉

- ・①・③・④については、比較的良好な評価結果であったと考える。②については、昨年度の活動を引き継ぐ形で行われているが、PTAの方々はPTA活動に協力的であると考えます。
- ・ボランティアについては水泳授業の監視や校外学習の付き添いなど、各学年・学級の中での保護者ボランティアで、大変多くの方々に協力をいただいている。学校支援ボランティアについては読み聞かせなど一部のボランティアに偏ってしまい、いろいろな方面での活用は少なかった。

〈改善策4〉

- ・学校支援ボランティアについては、夏休みの職員会議においてもう一度一覧表にまとめながら、各学年・学級において2学期の見通しを立てながら、積極的に活用をしていけるよう働きかける。

6. その他

① 子どもたちは、あいさつができていたか。	3	17	2
② 給食中のすごし方やマナーに問題はないか。	1	15	2
③ 清掃指導にしっかり取り組めたか。	14	8	0
④ 読書意欲を高めるような指導ができていたか。	6	11	0
⑤ 保健指導がしっかりできていたか。	10	8	0

気がついたこと

- ・あいさつは、している と児童は認識しているが、気持ちの良い挨拶ができる子は少ない。小笠原流礼法を取り入れているのに残念である。
- ・給食当番の身支度は、かなりよくなってきた。食べ方のマナーは、あまりよくないので、指導していかなければならないと思う。
- ・児童に、あいさつ運動であいさつすれば、あいさつができていくという認識がある。
- ・自らあいさつができる子に育てていきたい。あいさつを進んでできる子は、何事にも積極的に取り組めるように思う。
- ・同じクラスの子には、きちんとあいさつができた。だが、だれにでもは、まだできていないように感じる。引き続き指導していきたい。
- ・給食中におしゃべりが多い。時間を見ながら食べるように声をかけていきたい。
- ・週1回の読み聞かせが、子どもたちの読書の幅を広げるよい機会になった。
- ・あまり時間はとれませんが、給食日より、図書日より、保健日より等学級指導に利用させていただいています。ありがとうございます。
- ・児童会があいさつ運動などの取り組みを提案してくれているが、日常的に身につけているとは思えないです。あいさつや返事など、できる子もいるが、全体としてもっとがんばってほしいです。

- とても暑い日が続く中、熱中症対策としても帽子をかぶることを指導し続けました。帽子をかぶる子が増えてはきましたが、いつまでたってもかぶろうとしない子もいます。「かっこわるい」と言っていますが、自分の健康を自分で守るという判断力も実践力も弱いと思う。特に、高学年生には、全校の見本となってほしい。

〈考察〉

- 児童会であいさつ運動は行っているものの、取組のための行動になってしまっていると感じている先生が多い。あいさつ運動は「気持ちの良いあいさつができる人になる」という目標を達成するための手段であることを意識させていくことが大切である。
- 給食中の過ごし方やマナーに問題があると感じている先生方が多い。

〈改善策5〉

- 気持ちの良いあいさつができることは、良好な人間関係を築くための第一歩となる大切な行動である。しかし、「だから挨拶は大切です」、「あいさつをしなさい」と言葉だけで指導しても、その場限りのことになってしまう。まずは気持ちの良いあいさつを自らが実践し、その振る舞いを見せていくことが大切である。生徒指導提要(国立教育政策研究所)において、「一般にコミュニケーションとして伝わる内容は、言語的内容が30%、非言語的内容が70%である」と指摘している。教職員のみではなく、家庭とも連携しながらあ
- 給食の時間は楽しい時間であるが、楽しさはルールの上に成り立つことを指導していく。「食事」ということも、家で食べることと集団で食べることは違いがあり、そこにはルールが存在することを伝え、TPOを身につけさせていく。